

品質保証 – 発電所内で使用する単位の統一・標準化 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.213

設備の保守管理等において、長さや容積などの単位が設備ごとにバラバラだとミスの原因になると思うが、これを防ぐための取組は行っているのか。



第28回ワーキング
(2024.7.23) で議論

ワーキングチーム検証結果

計器などに用いる単位はSI単位で統一する方針であり、非SI単位の計器は更新に併せてSI単位化すること、取替までの間は、単位を換算して取り扱うことから、換算に伴うミスを防止するため、**ダブルチェックを行うことを確認。**

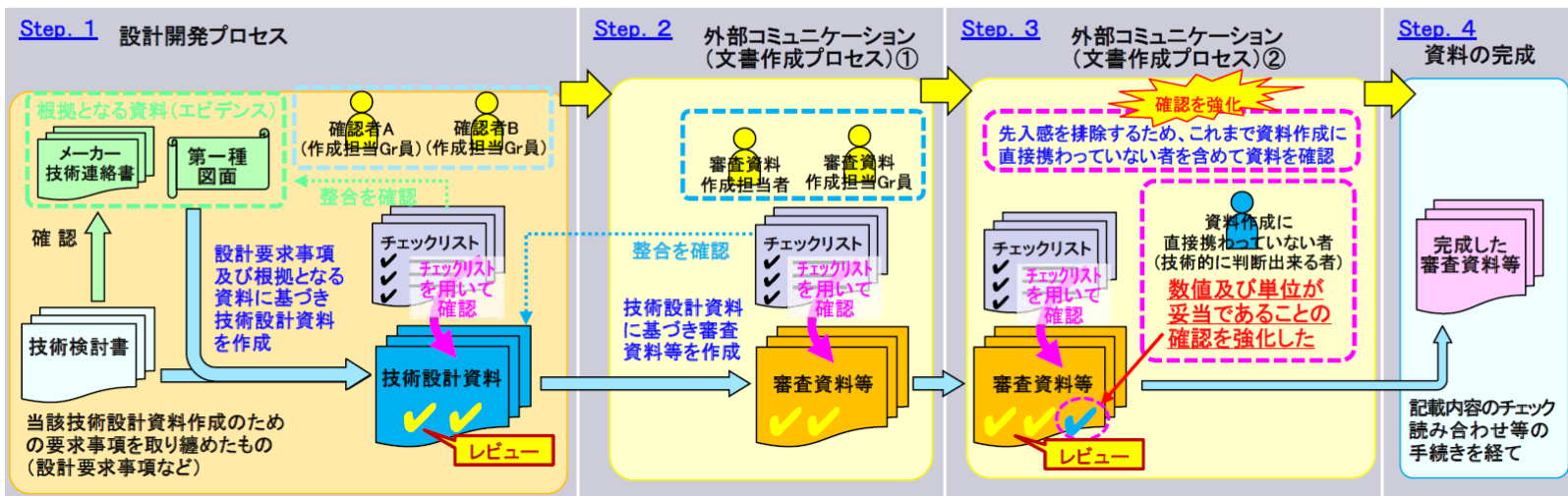
※SI単位
国際的に定められた単位系（国際単位系）に基づく単位。時間（秒）、長さ（メートル）、重さ（キログラム）などの7つの基本単位とその組み合わせから成る。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○資料等の確認プロセスの強化

- 日本原電では、過去に国の審査資料において、記載する数値の単位を誤る（誤 m³/h⇒正 L/h）事案が発生したことから、資料の作成における確認を強化
- 審査資料等に記載する数値が**技術的に妥当であること**などの確認プロセスを強化し、誤記を防ぐ体制を構築
- 社内で用いる計器等に係る単位は、**SI単位で統一する方針**としており、既存の**非SI単位を用いている計器**については、**取替に併せてSI単位化する予定**
- 換算に伴うヒューマンエラーや書類作成時の不備を防止するため、**ダブルチェック等の対策**を行う。

資料の作成作業のフローと作成された資料の確認プロセス（イメージ図）



強化した資料等の確認プロセス（イメージ）